



越生町長 新井 康之氏

町長のメッセージ

越生町は、都心から1時間圏内に位置しながら、外秩父の山々と越辺川の清流に恵まれた「みどりとせせらぎの町」です。町制施行136年という歴史を誇る本町には、関東三大梅林の一つに数えられる「越生梅林」があり、2月14日からは梅まつりが開催されます。ひと足早い春の訪れをぜひ現地で感じてみてはいかがでしょうか。

この魅力あふれる豊かな自然環境のもと、子どもたちが健やかに育つまちづくりを推進するため、令和6年5月に「越生町こどもまんなか応援センター宣言」をしました。

「安心元気な越生町 共に創る新しい未来」をスローガンに掲げ、これからも町民の皆様とともに考え、ともに歩み、誰もが安心して元気に暮らせるまちをともに創り上げていきます。

はじめに

埼玉県のほぼ中央に位置し、関東屈指の梅の名所として知られる越生町。都心から約50キロメートル、電車や車で約1時間というアクセスでありながら、豊かな自然に囲まれた“里山のまち”だ。春には関東三大梅林の一つ「越生梅林」の梅が咲き誇り、多くの観光客でにぎわう。越生町は2016年に全国で初めて「ハイキングのまち」を宣言。都心近郊で気軽に自然と触れ合えるまちとして注目されている。

歴史的にも奥深く、越生の梅は南北朝時代(1350年頃)、九州大宰府から天満宮を分祀した際に菅原道真公にちなんで梅を植えたことに始まったとされている。また、江戸城を築いた室町時代の名将・太田道灌とのゆかりが深く、有名な“山吹の歌”的逸話の故地でもある。江戸末期からは養蚕で栄え、その名残をとどめる古い蔵や民家が多数残っており、豊かな自然とともに歴史の趣を感じる魅力あるまちだ。

“顔の見える支援”で、安心の子育てがかなうまち

越生町は「子育てと教育のまち」として、ベビーベッド無料貸出やチャイルドシート購入費助成など様々な施策で、子どもの誕生から健やかな成長をトータルに支援している。とくに喜ばれているのが、地元の木材・西川材による手作りの積み木をプレゼントする「1歳のお誕生日プレゼント」だ。1歳の誕生月を迎えた子ども一人ひとりの家に町長が出向き、手渡しで渡すのが恒例で、訪問を心待ちにしているパパ・マ

マも多いそうだ。

子どもの居場所づくりにも注力している。2024年には「OGOSEこどもベース」を設立し、子ども食堂や学習支援、遊び場所など子どもの居場所を提供する団体のネットワークを強化。まちの子ども食堂では、地元の高校生ボランティアが子どもに宿題を教えたり、近所のお年寄りが食事をしに来たりと、多世代交流が生まれる温かな場所となっている。

昨年9月には、子育て世帯へお米券の配布を実施した。お米券は世帯宛ではなく、対象の子どもたち一人ひとりに宛てて送付されたという。町長の手渡しのプレゼント、子ども食堂での多世代交流、一人ひとりに宛てたお米券——。これらの取り組みからは小さな町だからこそできる、きめ細やかな“顔の見える支援”的姿勢がうかがえる。ほどよい距離感で温かく見守られていることを実感できる越生町での子育ては、大きな安心を得られるに違いない。



ひのきの香りとやさしいさわり心地で五感を育む。地元・西川材の積み木

越生町概要

人口(2026年1月1日現在)	10,516人
世帯数(同上)	5,095世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	54.2歳
面積	40.39km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	37所
製造品出荷額等(同上)	78.2億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	80所
商品販売額等(同上)	76.4億円
公共下水道普及率	54.3%
舗装率	34.4%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR八高線 越生駅
東武越生線 越生駅、武州唐沢駅
- 関越自動車道 坂戸西スマートICから町役場まで約10km
圏央道 圏央鶴ヶ島ICから町役場まで約12km

※ 県内トップの成約数を誇る「空き家バンク」

越生町の空き家バンク成約数は県内1位を誇る*。2013年9月の運用開始以来、これまでの成約総数は76件。「このまちで暮らしたい」と空き家を探す利用者のニーズに応えるため、町内の空き家の流通を促す仕組みを整え、物件数の確保に注力してきた。近年は都内や県内市部からの移住に加え、Uターン移住も増加している。リモートワークの普及や、都心まで電車で約1時間というアクセスの良さ、豊かな自然の中でのびのび子育てできる環境などが、越生町への移住を後押ししているといえる。

さらに、移住へのもう一步を後押しする施策として、まちでの暮らしを体感できる「お試し住宅」の準備を進めている。まちの魅力や住み心地を知ってもらうには、実際に暮らすように過ごしてもらうことが最も効果的であり、移住後のミスマッチを防ぐことにもつながる。越生町のお試し住宅は2026年度からリフォームを開始して、受け入れ準備を進める予定だ。今後の動向にぜひ注目いただきたい。

※ 豊かな恵みと歴史を繋ぐ、越生の「梅」と「ゆず」

越生町を代表する特産品は、梅とゆず。その生産量・出荷量は県内トップクラスを誇る。町はこれらの特産品を守り、継承していくために、とくに「越生べに梅」のブランド化を積極的に推進している。

現在、越生の梅は、後継者不足や、梅の木を枯らしてしまう特定外来生物クビアカツヤカミキリといった

課題に直面している。町の重要な産業を守るためにも、ブランド化などの取り組みは不可欠だ。その一環として、2026年2月、全国13の梅産地が集まる「全国梅サミット」が越生町で開催され、梅の文化と産業を守るために連携を深める。こうした活動に加え、ゆずキャンペーンや梅フェアといった様々なイベントを通じて認知度向上を図っている。

中でも、最も規模が大きいのが「越生梅林梅まつり」。毎年4~5万人が訪れる越生町の一大イベントだ。越生町の梅は、観賞用ではなく生産用として育てられているため、木の背丈が低く、梅の花を間近で鑑賞できるのが大きな魅力。今年の越生梅林梅まつりは、2月14日から3月15日まで開催される。梅の花が咲く頃は、まち全体がほのかな梅の香りに包まれているという。ぜひこの機会に、歴史ある梅の里・越生町を訪れ、その豊かな香りを楽しんでみてはいかがだろう。

(金子佐紀)



越生べに梅(写真右)・ゆず(写真左)は果肉が厚く、香りが高いのが特徴。梅干しやジャム、ワインやお菓子などの加工品も人気

*2024年度末時点 埼玉県市町村別通算成約件数(連携団体を除く)